

重度障害者が外へ出るということについて、様々な角度から考えるシンポジウムです。このシンポジウムまでに頸髄損傷者数名が、「実現したいこと」に取り組みました。それは旅行、一人暮らし、電動車いすを使用することなどなど様々ですが、その取り組みの様子を写真や映像と共に報告します。そこには制度、環境、サービスなど多くの課題が見えてきました。それらの課題を参加者の皆さんと解決に向けて議論していきたいです。

あいさつ

- 全国頸髄損傷者連絡会会長 三戸呂克美 ----- 3
- 日本リハビリテーション工学協会理事長 松尾清美 ----- 3

主催団体の紹介 ----- 4

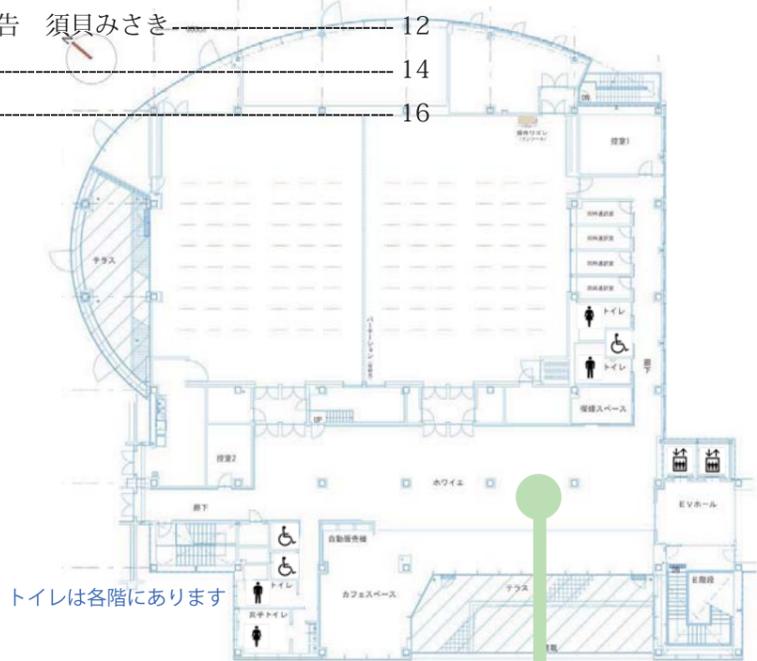
僕らのすっげえことやってみた！プロジェクト報告

- 行ってみたプロジェクト 米田進一 ----- 5
- 関わってみたプロジェクト① 藤田巖一 ----- 7
- 関わってみたプロジェクト② エンジニアチーム ----- 8
- 家さがしプロジェクト 桜井龍一郎 ----- 10
- ひとり暮らしプロジェクト 赤尾弘明 ----- 11

私のやってきたプロジェクト報告 須貝みさき ----- 12

みんなでディスカッション ----- 14

協賛・協力団体・実行委員会 ----- 16



トイレは各階にあります

福祉機器展 出展企業 (50音順)

株式会社アクセスインターナショナル、株式会社今仙技術研究所、株式会社キンキ酸器、株式会社正栄技研、ダブル技研株式会社、有限会社南豆無線電機、パシフィックサプライ株式会社、株式会社ウェル・ネット研究所 (明電興産株式会社)

全国頸髄損傷者連絡会会長 三戸呂克美



昨年の3月、東京の新宿にあります戸山サンライズにおいて全国頸髄損傷者連絡会と日本リハビリテーション工学協会との第1回合同シンポジウムが開催されました。そして1年後の今日ここに第2回合同シンポジウムを開催する運びとなりました。

会場となります神戸市ポートアイランドは、緑豊かな六甲山を背景にして大阪湾を埋め立てた人工の島です。現在は、沖にできた神戸空港、誘致された大学のキャンパス、企業の研究機関等の進出で新しい都市のかたちを目指しています。その神戸に近隣からまた遠方から参加していただきありがとうございます。皆様のおしを心より歓迎いたします。

さて、今回のシンポジウムは「外に出ようや！」と体全身ではじけるように楽しさを感じる語句をメインテーマに設け、生活実践者である頸髄損傷者と技術の専門家であるリハ工協会メンバーとの合同で起こしたプロジェクトを発表します。様々なバリアを乗り越えて外に出るための工夫を凝らし実践にこぎつけた米田進一さん、そこに関わった神戸学院大学学生の藤田巖一さん、そして、自立生活に向けて突き進む桜井龍一郎さん、赤尾広明さん、須貝みさきさんの総勢5名のシンポジストがそれぞれのテーマで熱いメッセージをお贈りします。参加された皆様の心に響くメッセージとして受け取っていただければシンポジストはもとより支援者、協力者の皆さんにも今日まで歩まれた苦勞が報われます。

私たちは、神戸での合同シンポジウムを満喫していただけるように楽しくも夢のあるプログラムを用意いたしました。知恵と情熱を出し合えば新しい生活づくりの夢は大きく広がります。「夢はかなう」を語るシンポジウムを皆様とご一緒に目指しましょう。

また、シンポジウムを盛り上げようと、福祉機器展には8社の出展と多くのご後援、ご協賛を賜りました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

ごあいさつ

日本リハビリテーション工学協会理事長 松尾清美
(佐賀大学大学院医学系研究科 准教授)



当協会は、エンジニアだけでなく身体に障害のある当事者をはじめ、PT や OT、医師、社会福祉士、介護福祉士など様々な会員で構成されています。身体障害者や生活に不便を感じる方々ための様々な福祉機器の工夫や開発、および福祉機器を使って生活するための支援技術を当事者と共に開拓することで、「障害を持っていても楽しく充実した生活が可能である」という考え方の構築と実際の生活行動支援、行政や社会システムへの提言などを行ってきました。

この合同シンポジウムでは、当協会と全国頸髄損傷者連絡会の皆様と共同で、社会参加を実現するための考え方や準備内容、工夫などについて、実践者の経過報告を中心にして話し合う場を設けました。また、外にでるために必要な様々な機器について、企業の協力を得て展示することができました。これらを通して、重度身体障害者の社会参加の方法や工夫などについて、広く世に知らしめ、自立(律)生活支援を進めていきたいと考えています。

例え四肢まひであっても、音声、まばたきなど身体の一部を任意に動かすことができれば、電動車いすを操作して自立移動が可能となります。衣服の着脱や排泄、入浴動作などできない動作や行為は、ヘルパーさんに自分がやってもらいたい方法や順序を伝達して、自分の生活を自分でコントロールして生活することができるのです。どんなに重度の身体障害があっても、自分の権利と責任、そしてマナーを理解していれば、自立(律)生活を行うことが可能なのです。みなさんの周りに、身体障害があるため、外に出かけられないと思っている方や家に閉じこもっている方へ、今日の経験と感動を伝達しましょう。そして、支援を必要とする方へ全国頸髄損傷者連絡会や当協会へ相談されることを勧めてください。

楽しい生活や人生を獲得するために、皆様の協力とこの活動への参加をお願い致します。